

Here Comes the Sun Vol.11

Himawari Theatre Group Inc.

Here Comes the Sun vol.11

Contents

03 Feature

巻頭インタビュー

桑野晃輔・上村祐翔・塩田康平・鐘ヶ江洗

巻頭インタビュー

田上真里奈・寺下怜見・神田朝香・和久井優

<出演情報Topics>

ひまわり出演 Topics

加藤清史郎 フジテレビ『OUR HOUSE』

藤村真優 メ〜テレ『まかない荘』

渡邉空美 映画『64-ロクヨン-前編/後編』

佐藤流司 ミュージカル『刀剣乱舞』～阿津賀志山異聞～

伊東佑真 ミュージカル『ラディアント・ベイビー～キース・ヘリングの生涯～』

宮野真守 ミュージカル『王家の紋章』

国立幸 アニメ『カミワザ・ワンダ』

山口愛・諸星すみれ・上村祐翔・宮本侑芽

アニメ『アイカツスターズ!』

吉永拓斗・宮野真守 アニメ『DAYS』

<ブルーシャトル 出演情報Topics>

寺下怜見 NHK『あさが来た』

田淵法明 まんが昭和むかしばなし 舞台『愛しの貧乏神』

BSP『真田幸村』

<砂岡事務所出演 出演情報Topics>

中嶋朋子

中嶋朋子が誘う『音楽劇紀行』

(パロック・オペラからミュージカルへ)第一弾公演

鳥越裕貴 パンク時代劇『名なしの侍』

12 For Kids

エリアピックアップ【東京編】

エリアピックアップ【大阪編】

エリアピックアップ【福岡編】

エリアピックアップ【札幌・名古屋編】

16 Column

劇団の視点

17 Actor's Appearance

砂岡事務所出演情報

ブルーシャトル出演情報

劇団ひまわり出演情報

22 Editorial Note

編集後記

全国のひまわり





劇団ひまわりの次世代を担う俳優達が思う俳優という職業の共通点「芝居」との向き合い方そして自分の将来について伺いました。

巻頭インタビュー

桑野晃輔・鐘ヶ江洸・塩田康平・上村祐翔

塩田康平

演じるからには自分にしか表現できない唯一の役・キャラクターを創りたい。それができなければ俳優として“負けだ！”と生きています。

——俳優を職業にしようと思ったのはいつ頃、何がキッカケでしたか。

香川県は、今は若干知名度が上がってきていますが、以前は圧倒的に知名度が低かったので香川県を有名にしたかったです！

また同時期に知り合いの方に「あなたは俳優になった方がいい」と言ってもらい、この二つの事が高校2年生の頃にあり、両方を担える人物になりたかったのがきっかけです。

——オーディションで役を取る為に何か努力されている事はありますか。

事前にどんな役・キャラかを聞いてリサーチを徹底して行います。自分の演じる役は自分にしかできないけど、キャラクターの本質を忘れてはいけませんので役を自分の中に落とし込みます。

——台本をいただいた後、役作りの為にまず何を最初に行いますか。

まずは役の台詞を読み込みその後、行間を読んだり、他のキャラクターから見る自分の役の情報を読み取る作業をしますね。

「この人は何を思ってこの台詞を言っているんだろう」とか台詞の間の感情の変化を読み取ります。

——数多くの2.5次元舞台に出演されていますが、キャラクターの演じ分けで気を付けていらっしゃる事、工夫されている事はありますか。

キャラクターが持つ根源を大事にしています。

今ハイパープロジェクト演劇「ハイキュー!!!」で田中龍之介君を演じていますが、彼の“まっすぐ裏表のない人間を作り上げたらあとは、感情で動く事を意識しています。性格を落とし込んだら、自分がステージの上に立つだけ”です。演じるからには自分にしか表現できない唯一の役・キャラクターを創りたい。それができなければ俳優として“負けだ！”と生きています。

——俳優としての将来はどうなっていきたいと思えますか。

表現が大好きなので、ミュージカルをやりたいです。歌、ダンス、芝居の極みがミュージカルだと思うので。自分を信じられない人は成功しないと思っているので、信念をもって、香川の星になりたいです！

——上記質問の将来に向けて、今年中に達成しておきたい目標を立てるとしたら？

昔から応援してくださっているファンの方が「目利きだね」と言われるような存在になりたいです。

応援してくれる人達が褒められるって、自分に返ってくるよりもとても幸せだなと思うので。

自分自身の目標としては、表現者としてキャラクターを最大限に表現できるよう努力し、自分が出ているシーンでは100%人を酔わせ、誰よりもステージの上で自由にいたい。また、歌唱を一番の特技にできるようにスキルを高めていきたいです。



塩田康平 (しおた こうへい)

1990年3月31日生まれ、香川県出身。
主な出演作品
ミュージカル『テニスの王子様』2ndシーズン(ジャッカル森原役)、映画『ダンスダンスダンス!!!』(月島カレン役)、舞台『GOKU』(金閣役)、ハイパープロジェクト演劇『ハイキュー!!!』(田中龍之介役)



上村祐翔 (うえむら ゆうと)

1993年10月23日生まれ、埼玉県出身。
主な出演作品
アニメ『神々の悪戯』(戸塚月人役)、アニメ『蟲師 続章』(禄助役)、アニメ『文豪ストレイドッグス』(中島敦役)、アニメ『ナツパカ』(ジューゴ役)、ゲーム『夢色キャスト』(桜木陽向役)

上村祐翔

自分が想像したものがちゃんと芝居として成り立つ事は難しい事なので、少しでもイメージに近づいていきたいなと思っています。

——俳優を職業にしようと思ったのはいつ頃、何がキッカケでしたか。

子役の頃から様々なお仕事をしてもらってききましたが、大学1年生の時に「神々の悪戯」というゲーム作品に声の出演が決まった事が直接的なきっかけです。

初めてキャラクターを演じる事を意識したり、大人になってから初めてのキャラクターだったので、アニメ作品を演じる声のお仕事「声優」を意識したのはこの作品が大きいと思います。

——オーディションで役を取る為に何か努力されている事はありますか。

あまり自分で役を作り過ぎないように意識をしています。

例えば原作のある作品だと原作を読んでキャラクターをイメージしてから臨むのは良いのですが、あまりにも自分の世界観、キャラ感を作りすぎると、監督との世界観が違って来る可能性があります。監督が思い描くキャラクターに寄り添えるように、ディレクションをしていただく中で、答えられるよう柔軟にキャラクターを動かせるようにしたいなと思っています。

——台本をいただいた後、役作りの為にまず何を最初に行いますか。

台詞と台詞の間の心の变化をまず考えます。

先入観やイメージを固めすぎないようにする工夫なのですが、映像を見る前に台本をチェックして、台詞と台詞の間の心の变化を読み取り、自分なりに考えて、イメージを持ちながら映像を見てみて、違い等を考えてみて、ただ映像をみて受動的にとらえるのではなく、絵に引っ張られすぎないように、登場人物の事を考えて、キャラクターの心の動きを丁寧に考えていきたいと思っています。

——お芝居をする中で演じ分けを意識されている事はありますか。

キャラクターはキャラクターで1人1人違う人物ですが、僕が演じているキャラクターは僕のパーソナルな部分にリンクしている事もあります。演じる時は自分との繋がりを改めて確認してそのうえで練習したり、自分

が演じるという意味をもう一度考えてみたりしています。

——俳優としての将来はどうなっていたいと思いますか。

心技体が一致した俳優になりたいと思っています。

頭や心で考えている事を体現する事は難しい事で、やりたい芝居はあるのにいざ体現してみると少し違ったりとか、ニュアンスはあっているけれどそれでも違ったりとか。そこがピシッと決まる人ってすごいなと思いますし、自分が想像したものがちゃんと芝居として成り立つ事は難しい事なので、少しでもイメージに近づいていきたいなと思っています。

——上記質問の将来に向けて、今年中に達成しておきたい目標を立てるとしたら？

今まで演じたことがないキャラクターを演じてみたいと思っています。

繊細な設定の役を演じることが多いので、目標を達成するには今よりも更に自分の引き出しを増やして、パーソナルな部分もどんどん引き出していきたいと思っています。

自分の事を見つめなおした上で挑戦していく事を大事にして、役作りの過程をもっときっちり行ったらもっと異なるキャラクターを演じられるのではないかなと思っています、それを今年中に達成できたらと思います。

今年はいろいろな役を演じる機会を頂いたので、共演する先輩たちに刺激を受けて自分の力にしていきたいと思っています。

また、これからもマルチに活躍していきたいと思っているので、舞台関係もやっていきたいです。今日一緒に撮影させていただいた皆さんは2.5次元舞台上で活躍されている方が多いですが、アニメ等を媒体にすると根本はやはり一緒ですし、表現できる事は楽しい事だなと思います。今は声のお仕事为中心ですが、今後は自分の表現を広げたり引き出しを増やす為にも幅広く活躍していきたいと思っています。

桑野晃輔

好きだから始めたお芝居ですし、好きだから辛い事もいっぱいあるんですけど、好きだから続けたいと思っています。

——俳優を職業にしようと思ったのはいつ頃、何がキッカケでしたか。

幼少期から死ぬのが怖くなる時があり、何かを残したいと思ったのがきっかけです。

生きた証を残したいと徐々に思い始めて、俳優を目指そうと思ったのは中学生くらいです。

家族で映画を見に行く事が多かったので、徐々に自分のやりたい事がお芝居の方向なんだと思うようになりました。

——オーディションで役を取る為に何か努力されている事はありますか。

例えばオーディションに落ちたとしても、後悔したくないじゃないですか。やりきったと思ったら後悔はしないと思うのでそのために準備をして、万全の状態に挑むのが第一だと思います。

そしてその準備をした上でオーディション会場では頑張り過ぎず、周囲の台詞を聞いて、動きを見て、第三者の目線を置いてオーディションに臨みます。

——台本をいただいた後、役作りの為にまず何を最初に行いますか。

台本を読んだときの第一印象、自分の感覚・直感を大切にしています。

お仕事以外でもいろいろなものを見たり、本を読んだり、いろいろな経験を積むようにしています。そうすると自分の中の感覚に経験した事として残るので、お芝居をする時に、そうやって得た経験の中から近い感覚を探していきます。

現実にはありえないお話しでも自分の経験の中から引き出して徐々に近づけていって嘘をつかないように努力しています。

——絵本合法衝で1人で何役も演じられる予定ですが、演じ分けるにはどのように工夫されますか。

今回の演出家さんもおっしゃっていた事ですが、自分のダンスがあってこの服を着ると女性になる。この服を着ると男性になる。この服を着ると悪者になるとか自分の引き出しを作って自分の経験から紐づけたりします。ごっこ遊びをやっていた子供の頃のように、楽しんで芝居をすることが良いと思うんですよね。

深い作業になるのは稽古終盤になってからだと思うんですが、自分から生まれるものが全てだと思うので、まずは自分が楽しまないと思ってしまいますね。

——俳優としての将来はどうなっていきたいと思いますか。

「この役は桑野があるんじゃないか」とか「桑野にやらせてみたい」と思われるようになりたいです。最近「桑野にやらせたい」と思ってくれる事がとても嬉しいので、求められる俳優でいたいというのが目標ですね。

好きだから始めたお芝居ですし、好きだから辛い事もいっぱいあるんですけど、好きだから続けたいと思っています。

——上記質問の将来に向けて、今年中に達成しておきたい目標を立てるとしたら？

今決まっている仕事で結果を着実に残していく事がまずは1つの目標です。声優の仕事も1つのお芝居なので、自分を出し切って、自分にしかできない芝居を全力で演じたいと思います。見てくれる人はどんな場所でも見てくれると思うので、いろんなチャンスをつかんで、役や作品に愛情をもって取り組む姿勢が次につながると思います。



桑野晃輔 (くわの こうすけ)

1990年10月16日生まれ、兵庫県出身。主な出演作品 舞台『絵本合法衝』(左枝大学之助/うんざりお松/孫七役)、舞台『ソラオの世界』、舞台『インフェルノ』、アニメ『僕のヒーローアカデミア』(青山優雅役)、アニメ『チア男子!!』(鈴木総一郎役)

鐘ヶ江 洸

毎日勉強して、現場行って、現場でも勉強して またレッスンで勉強してと、延々に勉強していますね。



鐘ヶ江 洸 (かねがえ こう)

1992年11月28日生まれ、福岡県出身。主な出演作品 ミュージカル『忍たま乱太郎』(立花仙蔵役)、舞台『真田幸村』(織田信長/望月千代女役)、ミュージカル『妖かし村正 地獄変』(霧隠才蔵役)、舞台『プリンス・オブ・ストライド』(鞍田慶役)

——俳優を職業にしようと思ったのはいつ頃、何がキッカケでしたか。

18歳の時、バスケットで大怪我をして落ち込んでいた時に見たドラマが俳優という職業を意識したきっかけです。そのドラマに励まされて学業を頑張って、大学に進学し、学業に専念すると親に約束をしていたのですが、夢をあきらめきれずに福岡アクターズスクールに入所し、ブルーシャトルや沢山の出会いがあって俳優として生きていく事を決めました。

——オーディションで役を取る為に何か努力されている事はありますか。

少しでも時間があれば演技、歌唱、ダンスのレッスンに参加して鍛えています。ひまわりはそこが一番の強みだと思うので、毎日勉強して、現場行って、現場でも勉強してまたレッスンで勉強してと、延々に勉強していますね。オーディション直前には作品や役柄の立ち位置、できる範囲で下準備をしていきます。

——台本をいただいた後、役作りの為にまず何を最初に行いますか。

結論にどう繋げるか、後ろから台本を読みます。台本を後ろから読んでみると違う発見があるんです、その発見を生かすのが一つと、後ろから読むとゴールが定まっているのでゴールに向かってどうアプローチをかけていくかを考えます。ゴールがあるから目標が立てやすいというのがありますが、この結論に至るにはなぜこの過程を踏んだのか心の動きを把握するにはとても良いかと思います。

——真田幸村で男性役と女性役、性別の違う役を演じていらっしゃいましたが、演じ分けはどのように工夫されましたか。

動きにダンスの要素を利用するタイプなので姿勢や手先の動きに注意しました。信長役では、指先に力を入れてたり腰や胸をはってみたり、千代女役や老婆役では動きをしなやかにして性別の区別を意識しました。女性も2役だったのですが、若い役と老いた役で体のしなやかさとか、首の位置、姿勢の変化やスピード感を大事にしていました。

——俳優としての将来はどうなっていきたいと思いますか。

海外でも活躍できる俳優になりたいです。福岡から飛び出して色々なものが見えるようになってきて、今はネットで世界が繋がっている時代だからこそ、

最終的には世界に行きたいなと思っています。その為に英会話も始めました。

——上記質問の将来に向けて、今年中に達成しておきたい目標を立てるとしたら？

英会話の習得とアクションとダンスが好きなので、そこに日本人らしい役を生かした侍や忍者を完璧に演じられるよう、スキルを磨いていきたいです。日本人として世界に出ていくので、日本人らしい役をベースに得意分野を生かしていきたいなと思っています。

生きている時間は一度しかないし、いつどうなるかわからないから、一瞬一瞬を大事にして自分の目標とする事を有言実行していきたいと思っています。



入団した時期、育ったスタジオが違っても同じ劇団ひまわりで育った次世代を担う俳優達に「劇団ひまわりで学んだこと」について伺いました。

巻頭インタビュー 和久井優・神田朝香・寺下怜見・田上真里奈



田上真里奈 (たのうえ まりな)
1991年9月28日生まれ、福岡県出身。
主な出演作品
舞台「浪漫活劇譚「艶漢」(六口役)、アニメ「ポッピングQ」(ポコン役)、舞台「ジョー&マリ プロジェクト「熱闘!! 飛龍小学校☆パワード」(噂商人マリ役)

田上真里奈

1回の稽古場、1日限りの現場それぞれ、集中し準備して何か持って行くという意識が身につきました。

——劇団ひまわりに入ったキッカケを教えてください。

高校に入学したら新しいことを始めるという親との約束があったのですが、部活にも入らず何もしないまま10月になっていました。子役として中学生まで舞台の仕事をしていましたが、改めて職業にしたいと決意し、子役仲間が入っていた劇団ひまわりに入ることにしました。

——劇団で受けていらっしゃるレッスンを教えてください。

福岡では演技とダンス、上京後は初めに所作、殺陣、声優クラスを受けました。

所作、殺陣は日本人なら基本として必須だと思い、声優クラスは、経験したことのない芝居のジャンルを勉強しなかったので受けました。そのときは自分が声優をやりたいという思いはなかったです。同じ理由で、ダンスのジャンルで経験のなかったHIPHOPも受けていました。

——劇団ひまわりのレッスンでお仕事に行く際に役立ったと思ったレッスンは何でしょうか？

役立ったのはもちろん全てです。具体的に仕事に直結して使えるスキルであると同時に、多くの研究生の中で毎日が勝負であるという感覚はレッスンで培われました。

1回の稽古場、1日限りの現場それぞれ、集中し準備して何か持って行くという意識が身につきました。

——舞台のお仕事をこなしながら、アニソングールズユニット「Trefle」としても活躍され、また最近では声優としても出演されているようですが、ジャンルによって演じ分けをされていますでしょうか。

声の仕事は舞台や映像とは大きく違いました。一番苦労したのは芝居の距離感です。

自分はマイク前で動けず、画に合わせて声のみで芝居をするという制限は経験がなかったので難しかったです。

舞台や映像にも制限はありますが、声の仕事は職人的な技が必要だなと感じました。しかしどのジャンルにも流用できる事があり、相乗効果として作用し合えることを実感しています。それは芝居だけでなく歌やライブパフォーマンス、ラジオなどのバラエティでも実感しています。

——俳優としての将来はどうなっていたいと思いますか。

どんなジャンルであれ、現場の居方が良い人でありたいと思います。自分も率先してものづくりをしていく精神で作品に関わっていきたいです。舞台でも映像でも活躍する名脇役になるのが夢です。

——上記質問の将来に向けて、今年中に達成しておきたい目標を立てるとしたら？

成り行きに任せるタイプなので、目標を立てるのは苦手なのですが、様々なジャンルに挑戦し続けたいという思いはあります。ここ数年は漫画やゲーム原作の舞台も多く経験させていただいたので、舞台が演劇的であることの大事さを感じた今、舞台オリジナルの作品も頑張りたいです。

3,4年以内に、主演をやって責任と共に作品を背負ってみたいとも思います。比較的若い現場も多かったので、先輩たち、大人たちの中で揉まれたいという思いも強いです。今までしてこなかったこと、知らないことを経験して自分を大きくしたいです。

和久井優

今思えばあのレッスンがいきっていたんだと感じる事がたくさんあります。

——劇団ひまわりに入ったキッカケを教えてください。

お芝居をやってみたくて色々な養成所や劇団を調べていたら、劇団ひまわりに全日制というクラスがある事を知り、ここなら集中してお芝居に取り組みそうだったからです。

——高校在学中に入団して全日制に進級をされましたが、高校在学中はどのようにレッスンと学業を両立されていましたが、また高校卒業後の進路として劇団ひまわりを選んだ理由を教えてください。

在学中は、高校が栃木でしたので週に3回程度東京まで通っていました。レッスンのある日は学校から駅へ直行して、帰りは自宅に到着するのが深夜になってしまいましたので学業との両立は大変でしたが、好きな事でしたので、勉強もレッスンも全力で取り組めたと思います。高校卒業後の進路として劇団ひまわりを選んだ理由ですが、元々クラシックバレエを習っていた事から舞台に興味を持つようになり、舞台やお芝居、芸術関係の事を仕事にしたいと小さい頃から考えていた事が影響していたと思います。

大学教師や翻訳家になりたいと思った事もありましたし、将来やりたい事がたくさんあってなかなかコレ！といった選択ができずにいましたが、高校3年生という将来の進路を真剣に考える時期が、自分が本当にやりたい事やそのために必要な事をじっくり考えるきっかけになり、劇団ひまわりに入る選択をしたのだと思います。

——専門学校という選択肢は考えた事はありましたか。

あまり専門学校の存在を知らなくて、専門学校よりも劇団の方がしっかりレッスンを受けられるイメージがあり、専門学校卒業後にプロで活躍されるのはほんの一握りじゃないですか。でも劇団であれば在団されている方で活躍されている方がいるので安心かなと思い、劇団ひまわりを選びました。

——劇団ではどんなレッスンをうけていらっしゃいましたか。

全日制では演技をはじめ、ジャズダンス、日舞、バレエ、殺陣、パントマイム等様々なレッスンを受けていました。

——劇団ひまわりのレッスンでお仕事に行く際に役立ったと思ったレッスンは何でしょうか？

全て役立っていると思います。レッスンを始めたばかりの頃は一生懸命やってみるものの「これはなんのためのレッスンだろう？」とよく理解できていなかった事もありましたが、今思えばあのレッスンがいきっていたんだと感じる事がたくさんあります。

——俳優としての将来はどうなっていたいと思いますか。

私や私の出演する作品をみて下さった方が、少しでも前向きな気持ちになれるような役者になりたいです。

——上記質問の将来に向けて、今年に達成しておきたい目標を立てるとしたら？

私は役者としても、人間としてもまだまだ成長過程で学ばべき事が山ほどあると思いますので、とにかく色々な経験を積み、お仕事もどんどん挑戦させて頂ける事に挑戦し、その1つ1つを全力で取り組みたいと思っています。



和久井優 (わくい ゆう)

1995年1月24日生まれ、栃木県出身。
主な出演作品
アニメ『アイカツ!』(氷上スミレ役)、アニメ『おそ松さん』(花の精役)、アニメ『三者三葉』(西川葉子役)

寺下怜見

日本舞踊のお稽古で着付けや所作を学んだので 京都の撮影現場に行った時とても役立ちました。

——劇団ひまわりに入ったきっかけを教えてください。

小さい頃から人前に出て踊る事が大好きで、小学2年生の時にボランティアで老人ホームに訪問する機会があり、クラシックバレエをおじいちゃんおばあちゃんの前で披露したことがあります。踊り終わった後私の手を握って『ありがとう』と涙を流して言うてくださったことが本当に嬉しくて、もっと皆の前でダンスやお芝居したいと思い劇団ひまわりに入りました。

——劇団で受けていらっしゃる(受けていらっしゃった)レッスンをお伺いさせてください。

小学5年～中学3年はミュージカルクラスに在籍 クラシックバレエ、タップダンス、シアターダンス、歌唱、他にも日本舞踊、ジャズダンス、アクション、HIPHOP。上京してからは、ジャズダンスと歌唱を学んでいます！

——劇団ひまわりのレッスンでお仕事に行く際に役立ったと思ったレッスンは何でしょうか？

日本舞踊です。日本舞踊のお稽古で着付けや所作を学んだので京都の撮影現場に行った時とても役立ちました。

——最近では朝の連続テレビ小説『あさが来た』にご出演され、映像、CM等で活躍されることが多いですが、映像のお仕事で1番楽しかったことは何ですか？

朝の連続小説の撮影が1番楽しかったです。私が演じた節は、眉山家の次男 養之助のお嫁さんになる役で、後半からの登場だったので初めは馴染めるかとても不安な気持ちでいっぱいでしたが、現場の雰囲気やスタッフさんの明るさ、俳優さん女優さんの優しさで、直ぐに馴染むことができました！みかんの向き方1つにしても、和歌山流のみかんのむき方を知ったり、共演者の方が和歌山弁指導を受けている隣で私も一緒に練習してみたり、赤ちゃんの抱っこの仕方を教えて貰ったり、出演出来たことはもちろん、毎回撮影現場で学ぶことがたくさんあり、とても新鮮で本当に楽しかったです。

——俳優としての将来はどうなっていたいと思いますか？

お芝居することが大好きなのでずっと続けたいと思っています!!どんな役も合う女優さんとして生きたいです!そして見てくださる方々に笑顔をお届けしたいです。

——上記質問の将来に向けて、今年に達成しておきたい目標を立てるとしたら？

私は台詞覚えが早い方ではないので、訓練する事を目標にしたいです！



寺下怜見(てらした れみ)

1994年6月22日生まれ、大阪府出身。
主な出演作品
舞台「元祖黒久1・1・1」笑劇談タクシードライバーエピソード(松山ひかり/松山みさき役)、イメージガール「ALGO7」、ドラマ「あさが来た」(眉山節役)



神田朝香(こうだ あさか)

1996年11月15日生まれ、熊本県出身。
主な出演作品
ドラマ『めんたいぴりり』(ヒロイン千代子 少女時代役)、舞台『めんたいぴりり』(千代子 少女時代役)、舞台『プリズンホテル 夏』(ダイアナ役)

神田朝香

意思が強くないと続けていけないから、 今はお互いに高めあえるいい刺激になっていると思います。

——劇団ひまわりに入ったキッカケを教えてください。

姉が新聞で劇団ひまわりの広告を見つけ、それに応募したことがキッカケです。幼い頃にプリンセスの真似を大きな鏡の前ですることがとても大好きな私でした。それを見て姉がチャレンジしてみたらと応募してくれました。姉が後押ししてくれた事により両親も舞台に立っている私を見て、応援してくれるようになりました。

——劇団で受けていらっしゃるレッスンをお伺いさせてください。

熊本では演劇と日舞を受けていました。ダンスが好きなので上京してからダンスを中心に学んでいます。

——劇団の中で一緒に学んだ友達もオーディション会場で会えばライバル、気にしたりしますか。

熊本にいる時はみんなで頑張ろうってお互い励ましあっていたけど、東京ではみんながお互いにライバル心を燃やしているので初めびっくりしました。でも意思が強くないと続けていけないから、今はお互いに高めあえるいい刺激になっていると思います。

——熊本E Xスタジオで学ばれて進学を機に東京に移籍され、熊本では映像のお仕事、最近では舞台にもご出演されていましたが、学業との両立で工夫されている事はありますか。

私は演劇系の大学に通っており、大学の演劇活動と劇団ひまわりの演劇活動を完全に分けて考えるようにしています。プロの世界と生徒として教えてもらっている環境では全然雰囲気が違うので。あとは、大学で眉山の友人と出会い、できるだけ友人の出る舞台などを見に行くようにしています。

——俳優としての将来はどうなっていたいと思いますか。

自然な自分でいたい。何かを飾ることなく、素直な女優になりたいです。

——上記質問の将来に向けて、来年中に達成しておきたい目標を立てるとしたら？

熊本から上京してきて家族や多くの友人が熊本にいますので、遠くで応援してくれている人達も届くように、全国版の映像のお仕事をしたいと思っています。

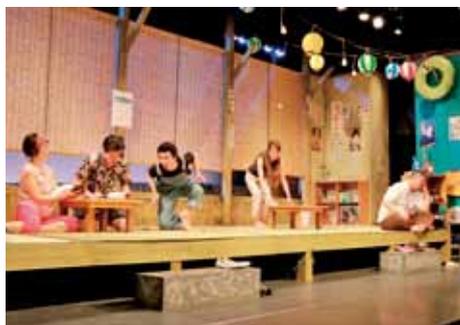


2016年4月期よりミュージカルクラスを開講

2016年4月期より東京俳優養成所ではミュージカルクラスを開講いたしました。オーディション（年2回）にて選抜を行い、劇団内外の舞台上で活躍できるミュージカルスターの養成を目的とした特別クラスです。通常の週5レッスンに加えて歌唱、バレエ、タップダンスを追加受講することができるので、週8レッスンでミュージカルに必要なスキルを集中的に伸ばしていただくことができます。歌って踊って芝居ができれば一般的な作品のみならず、2.5次元ミュージカルなどでも活躍の機会が得られること間違いなしです。ミュージカルスターを目指す方は是非次回のオーディションにチャレンジしてみてください。

ステージ レポート 第51期 研究科 卒業公演 タ〜ゆう〜

今年の研究科卒業公演は宅間孝行作「タ〜ゆう〜」を上演しました。上演時間2時間45分と長編となった本作。笑いあり、涙ありの青春ラブストーリーを感動的に演じきりました。この1年間レベルの高い俳優になるべく、様々なレッスンをより本格的に受けてきた全日制研究科。これまで積み重ねてきたものを今後の活動に活かして更に飛躍して欲しいと心から願います。



日程：2016年3月18日（金）～21日（月・祝） 会場：シアター代官山

ステージ レポート 第14期 研修科 修了公演 宇宙の旅、セミが鳴いて

俳優としての基礎をみっちり学ぶことができる全日制研修科は、集団生活の中で描かれる人間模様が徐々に極限状態へ向かっていく様を見事に演じ、1年間の成果が感じられる素晴らしい舞台となりました。



より良い舞台を作り上げるには週5日間のレッスンでも時間が足りないと感じたかと思えます。各々が目指す俳優となれるようにこれからも日々研鑽を積み重ねて欲しいと思います。

日程：2016年3月3日（木）～6日（日） 会場：シアター代官山

ステージ レポート 第6期 声優科 修了公演 童話裁判

声優を目指して日々レッスンに励んできた全日制声優科。歌や踊りを交えながら童話の真実を裁判にかけるといふ話を見事に表現してくれました。声優を目指す彼らがなぜ舞台を行うのか。劇団ひまわりでは声優には俳優としての基礎がなければならぬと考えます。今回の舞台を通して演じるということがどういうものか肌で感じることが出来たことでしょう。この経験を活かしてこれからも頑張ってほしいと思います。



日程：2016年3月3日（木）～6日（日） 会場：シアター代官山

ステージ レポート 幼稚部 幼稚部発表会

毎年春に行われている幼稚部発表会が今年も4月2日に開催されました。うた、ダンス、日本舞踊、プレイの全18クラスが参加いたしました。みんな1年間のレッスンの成果を出し切り素晴らしい発表会となりました。



子供たちの明るい笑顔がこれからのひまわりを牽引していくのだと感じさせてくれる素晴らしい一日でした。

日程：2016年4月2日（土） 会場：シアター代官山

ピックアップ ひまわり 【大阪編】

イベント紹介 体験レッスン・毎月開催中!

大阪俳優養成所では毎月「体験レッスン」を開催しております。本格的に習う前に、まずは体験してみませんか？クラスや先生、レッスンに通っている研究生の雰囲気があるので安心です。ご希望の方はホームページからエントリーしてください。声と体と心が表現の武器になる俳優・タレントになるために、演じる時間を楽しみましょう。あなたにはあなたにしかない個性があるのです。それを人前で十分に発揮できるように「自分の魅力を知る」ことからスタートです。



ステージレポート 松本美奈 ローザンヌ国際バレエコンクール レポート

コンクールでの1週間は、毎日、朝から夜までバレエ、コンテンポラリーのレッスンがあります。レッスン審査では、ピリピリした雰囲気の中で集中力や精神力が鍛えられました。ボリュー劇場は日本とは違い傾斜舞台です。最初は転げ落ちるかと思いましたが、慣れたらとても踊りやすく舞台を楽しめました。コンクール本番は、全員がライバルですがお互いに励まし合い、フレンドリーで温かい雰囲気の中で踊り、海外の人達とも友達になり充実した日々でした。有名な先生の指導で、自分の欠点に気づき、これからのバレエ人生にとって本当に良い勉強になりました。今夏からオランダの王立バレエ学校に留学し、この経験を活かしてますます頑張りたいと思います。



ステージレポート 研究科春公演 会議

4月8日(金)～10日(日)、大阪俳優養成所第22期研究科の春公演を行いました。今回の台本は、別役実作『会議』でした。不条理の世界に光る人間性の本質を表現するため、研究科一同、懸命に戯曲に向き合いました。上演後は、繊細な中にも情熱を持って挑んだ彼らの熱演に引き込まれたとのお声を、お客さまより多数頂戴しました！本作で学んだことを活かして、今後の更なる飛躍を目指します。



ステージレポート 金沢エクステンションスタジオ レッスン発表会

3月19日(土)、金沢歌劇座にて、レッスン発表会をおこないました。今回は「会話」を重視する台本に取り組み、相手と向き合っ、自然な会話や動きができるよう、稽古に臨みました。自然に演じることがいかに難しいかを感じながら、試行錯誤を繰り返して、発表に至りました。

これからも表現の幅をさらに広げ、北陸エリアから元気で魅力的な人材を輩出できるよう、努めていきたいと思っています。



ステージレポート 岡山エクステンションスタジオ研究生公演 オズの魔法使い

4月23日(土)～24日(日)、岡山県天神山文化プラザにて「オズの魔法使い」を上演しました。本作には、「人への思いやり」「助け合い」「認め合う心」そして「友達」など「生きていくために大切なこと」がたくさん盛り込まれています。今公演は、稽古と稽古の合間に、宿題として自身の役柄を深め「お客様に届ける」ということをテーマに取り組みましたが、一番難しかったことは本作の登場人物同様「自分がどうするか?」でした。今後も各自の課題に向き合い表現の幅を広げるように頑張っていきたいと思えます。



公演情報 プロデュース公演 ミュージカル チルドレンズ 幸せな出会い 上演決定

「チルドレンズ」それは子どもの頃の大切な思い出の記憶の物語。出会いや別れ、助け合い、励まし合い、そして大人になっていく。誰にでもある経験です。子どもの頃の思い出は、人間として大きく飛躍するきっかけとなる大切なものです。今夏のお話は、2014年に実際にイスラエル・テルアビブにて行われた「ジャパンフェスティバル」に招かれたユニット「シェイシェイ(福岡アクターズスクールのユニット)」のパフォーマンスからインスパイアされたストーリーをもとに展開します。

日程：2016年9月1日(木)～4日(日)
会場：グランフロント大阪北館4階 ナレッジシアター



2014年 ジャパンフェスティバルより

がまだすばい (頑張ります)熊本!!

平成28年熊本地震の被災者の皆様には、謹んでお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。



※2014年イスラエルのイベントより

熊本エクステンションスタジオは5月1日よりレッスンをスタートし、大切な仲間との再会を喜びあいました。熊本から元気を発信するために研究生の皆が一丸となり、レッスンに取り組んでおります。

○九州発ユニット 新「SHEYSHEY」 活動開始!!

福岡・北九州・熊本在住の小学生から高校生で構成されたユニット新「SHEYSHEY」が2016年の夏より活動を開始します。ステージでは歌にダンスを披露し、パワフルな彼女達の活躍を楽しみにして下さい!

ステージ レポート 北九州エクステンションスタジオ発表公演 ミュージカル チルドレンズ—いっばいの愛をこめて—

2014年夏に上演したミュージカル「チルドレンズ」を、北九州エクステンションスタジオの勉強公演にて再演しました。5人の女子高生が、将来に悩みながらも大きな夢に向けて走り出す姿を描いた作品です。誰もが一度は経験をする自分の



※3月5日(土)北九州市立男女共同参画センター ムーブ2階ホール

夢や将来の悩みについて登場人物と同世代である女の子達が演じるにより、見ている人にも身近に感じ、自分を見つめ直せこれからの自分の道を考える事の出来る作品になったのではないのでしょうか。

ステージ レポート 熊本エクステンションスタジオ勉強公演 楽屋〜流れ去るものはやがてなつかしき〜

今回の作品では、楽屋で巻き起こる、女優同士の水面下での争いを俳優なら誰もが一度は抱く色々な想いを凝縮させて挑みました。そして、勉強公演では初めての少人数、



※3月26日(土)、27日(日)熊本市現代美術館 アートロフト

4名ずつのダブルキャストによる作品作りに取り組みました。演じるキャストによって、全く違うキャラクターになるのもダブルキャストの醍醐味。互いに切磋琢磨しながら、舞台では作品に出てくる4名それぞれの「女優」としての人生を生き抜きました。

ステージ レポート 福岡アクターズスクール 第16期研究科修了公演 FANTASISTA

第16期研究科修了公演のテーマは「想い」です。FANTASISTAは、彫刻家の男と彼が造ったニケ像を巡り、各々の想いが錯綜するファンタジー作品です。想いといっても愛、



※4月15日(金)、16日(土)ふくふくホール

絆、憧れ、妬み、欲望など、様々な想いがありますが、今回の作品ではその想いの形が役によって様々でもとも見ごたえのある作品となりました。また修了公演は1年間の成果を発表する場であると共に、課程を終えた研究生が次のステップへ進む卒業公演でもあります。研究生自身も様々な「想い」を込めた舞台となりました。

公演情報 2016年夏公演 ミュージカル チルドレンズ—幸せな出会い—

九州発のユニット「シェイシェイ」は東京への進学が決まり、地元である福岡・熊本を離れることとなります。そこで彼女



※北九州EX発表公演より

たちは新メンバーを集め、新生「SHEYSHEY」を結成しますがある日メンバーの一人がアメリカへ引越すこととなります。出会いと別れをテーマにした、子どもの頃の成長期の物語です。誰もが一度は経験をしたことのある「出会いと別れ」は、大切な思い出となっていると思います。そんな、記憶を思い出させてくれるようなあたたかな作品にしていきたいですので、是非ご観劇ください。

日程：2016年8月18日(木)・19日(金)

会場：ももちパレス 大ホール

札幌編

ステージレポート 札幌俳優養成所 専科フェスティバル2016



2016年3月26、27日、札幌市内の「ことにパトス」にて専科フェスティバルを開催しました。今回は札幌に加え旭川EXから2クラスが参加し、お芝居を中心にダンスやアクションなども織り交ぜたオムニバス形式の1部・2部構成で2日間計20演目を上演しました。第2部では高等青年部クラス単独での公演も行い、1部2部共にたくさんの方にご来場いただき大盛況で幕を閉じることができました。次回公演に向けて気持ちを切り替え、研究生一丸となって皆さん楽しんでいただける良い作品を作り上げたいと思います。

札幌俳優養成所 声優演技基礎レッスン開講！



札幌俳優養成所がかねてから多くのご要望を頂いていた声優養成カリキュラムを、今年度4月より「声優演技基礎」として新規開講致しました。表現者として必須となる演技基礎のスキル習得から、ナレーション、声あて（アテレコ）など、必須となるテクニカルの面まで幅広く学べるレッスン内容です。中学生以上の劇団研究生であれば、どなたでも受講可能な選択レッスンですので、ぜひ積極的に参加して、活躍の幅を広げてください！

札幌俳優養成所 夏季入団オーディション開催！！



札幌俳優養成所では夏季入団オーディションを7月10日（日）に開催いたします！俳優はもちろん幅広いジャンルでプロを目指したい方、自分の可能性を高めたいと思っている方などなど…札幌俳優養成所では常に新しい才能と人材を求めています。募集要項・詳細は劇団ひまわり札幌俳優養成所ホームページで掲載中！あなたの可能性、ブラッシュアップしてみませんか？たくさんのご応募、チャレンジをお待ちしております！！

名古屋編

名古屋アクターズスクール 「声優クラス」「ダンスクラス」を新設しました 『スカイスターズ』を通年募集します



新年度から新しく「声優クラス」と任意選択制のレッスン「ダンスクラス」を開講しました。どちらも週末の土曜日、日曜日にレッスンをおこないます。「声優クラス」は中等部の研究生からを対象にしていますが、今後は児童部での開講も検討してゆきます。また名古屋では『スカイスターズ』という、「演技」「歌唱」「ダンス」を同時に学べるミュージカルコースがあります。スカイスターズは座内オーディションで選ばれた研究生が、レッスンをおこないます。劇団の創造活動の中心になるこのマスターコースのメンバーは年間を通して募集しています。

研究生コメント

小笠原さくら（中等部／スカイスターズ）



レッスンは、友だちと楽しく受講しています。ダンスはしっかりと基本を覚えること、演技では、自分の足りない所を確認することを大切にしています。幼いころからレッスンをしていて、だんだんと人前でも、はっきりと自分の言葉を発することができるようになりました。

初等部の演技レッスンの時に先生から、「セリフは前日に覚えるのではなくて、毎日練習して覚えなさい」と言われたことをずっと覚えて

います。CMに出演させていただいたとき、スタッフの方々やさしく対応して下さったこと、舞台に出演させていただいたときの最後までやりきった後の達成感は忘れられません。

【保護者様より】学力も大切ですが、人を思いやり、感情豊かな心をもてる人になって欲しいと思います。人のためになる仕事や、勉強をして欲しいと思います。

武田侑佑（上級部／スカイスターズ）



【保護者様より】引込み思案な性格を、人の前でもしっかり自分の意見の言える子になってほしくて劇団に入りました。今では、ひまわりに入れてくれてありがとうと言われるほど楽しくレッスンを受けています。幼稚園から入所しましたが、小学生になり、学校でもしっかり恥ずかしがらずに発表できたり、友達に注意したりすることも出来るようになりました。現在のスカイスターズのレッスンを継続して1つ1つ目標を作り、クリアしていきたいと思っています。

劇団の視点



劇団ひまわり
総合計画室 室長
砂岡 誠
(早稲田大学招聘研究員)

俳優を 目指す人たちへ

前号のコラムでは、俳優としての職業選択について英国やハリウッドの事例を紹介し、

俳優の育成はアカデミックな仕組みにより成り立っていることをレポートしました。本号では、動物行動学や進化生物学からの視点で俳優の必要性について考えてみます。

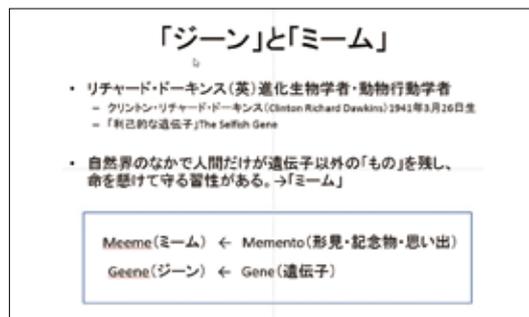
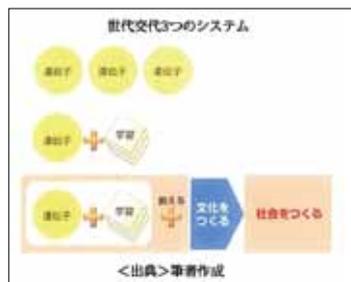
「なぜ俳優は必要なのか」

「俳優である前に人間であれ」という言葉があります。すでに俳優として成功を取めている人たち、現在俳優を目指している人たちにとって、一度は聞いたことのあるセリフではないでしょうか。しかしこれは不思議な言葉です。誰もが俳優でなくとも人間であり、社会に役立つ人間になることは当然だからです。なぜそのような言葉が派生したのかについて考えてみると、「俳優」という言葉の定義が曖昧であることから、俳優に関わる人たちにとって都合のよい解釈がなされ、その役割が社会に受け入れられなくなったことが原因であると考えられます。また、本来俳優に求められている役割がメディアの強い市場性により乖離してしまったことが背景にあると思われる。

「俳優である前に人間であれ」というよりも、「なぜ俳優が必要なのか」について、

俳優でない人たちにも俳優の必要性について共に議論し、共通の価値観を持ってその存在を認識してもらうことが大切です。そのために、俳優でない普通の人たちが日常生活で俳優とどのようなつながりがあるのかを考察し、興味を引き出すことも必要です。

一例として、人間が動物として行動する視点から、生態学や進化生物学の分析が参考になり、俳優の必要性についてヒントを与えてくれます。



「ポルトマンとドーキンス」

スイスの動物学者であるアドルフ・ポルトマン (1898-1982) は、「人間の赤ちゃんは猿の胎児であり、一人では自然界で生きていけない」として、人間は大きな脳を成長させて生きていくために長い時間をかけ、人に守られて成人になっていくと論じています。

また、以前にも紹介しましたが、英国の進化生物学者のリチャード・ドーキンス (1941-) は、「人間は遺伝子によってコントロールされている」という理論 (利己的な遺伝子) により世界に驚愕を与えました。一見無関係とも思える生物学の二人の理論と俳優の必要性は実はつながっているのです。

俳優は、英語ではアクターですが、アクターの意味は事象要因となるヒトを指します。事象要因とは、何かが起こった時の原因としてのヒトのことです。この本質を理解している自称・俳優と呼ばれる人たちがどれほど存在するのでしょうか。俳優は舞台・テレビ・映画などで表現し、物語をつくるために演じていますが、なぜ人間の生活のなかに物語が必要なのでしょう。ここで物語の持つ特性についても考えてみる必要があります。

「大切なことを伝えていくこと」

ドーキンスは、「人は遺伝子 (ジーン・GEENE) によってコントロールされ、人だけがモノ (ミーム・MEEME) を創造する特性があり、時に人はミームを命がけで守ることがある」と主張しています。

筆者がここまで書いたところで、九州地方において熊本地震が発生しました。

被災者の皆様に心からお見舞い申し上げます。

被災者された方々の、「家族の写真や大切な思い出を取りに倒壊した家に戻りたい」とのコメントや、捜索中で我が子の身元確認が取れない母親の、「出来れば、自らの命と引き換えに子どもを助けたい」という思いは、ドーキンスのいうミームの存在とつながります。

文学・音楽・絵画・彫刻・工芸品など、映画やドラマ、人間が創って残したものは、人間が次の世代に伝えていくために大切なものなのです。それは芸術に限らず、その人にとって大切な思い出となるものがミームとして

物語を創造させていくのです。

ポルトマンは人間が成人するまでを4期に分けて、それぞれの年齢期における体験が脳の成長に影響を与え、20歳後半までの長い期間に渡ることを指摘しています。幼少期に絵本を何度も読んであげることや、子どもの頃に芸術的なものに触れた体験や思い出が、その人の成長に大きな影響を与えていることは疑う余地がありません。一方、子どもの頃にゲームやアニメ、SNSなどに触れすぎてしまうと、脳の成長過程ではマイナスの影響が懸念されます。ドーキンスのいうミームこそメディアであり、メディアは人間にとって役立つものでなければならぬのです。ミームを創る俳優こそ必要なメディアなのです。

「俳優も演劇もメディアとしての役割を果たすべき」

少し前に、アイドルユニットの解散や、タレントの不祥事による大衆の批判が相次いで起こりました。どちらも公共の電波であるメディアを利用して有名になり、経済的な恩恵を受けてきた人たちです。市場主義の芸能界では、メディアの本質を理解していないアクターによるメディアの私物化という不平等と、既得権益が俳優の特権だという勘違いがあります。俳優を目指す人たちは注意すべきです。(以下、次号で)



早稲田大学演劇博物館の前で、今年の研究科ゼミ1回目

✿ 編集後記



Editorial Note



＜表紙・裏表紙撮影裏話＞

例年より桜の開花が早かった今年4月の某日。表紙は都内のハウススタジオで、裏表紙は劇団内で撮影を行いました。広報誌の表紙も裏表紙もインタビューも含め過去最多の撮影人数です。

今号のテーマは「next generations」。近い将来、劇団の看板を背負い第一線で活躍してゆく、若手俳優たちを起用させていただきました。

今回の広報誌の発行日は6月1日という事もあり、梅雨時期の憂鬱さを忘れさせるような初夏の想定をリクエストさせていただきました。表紙も裏表紙も初対面の方が多かった今回の撮影ですが、テーマを決めてコミュニケーションを取ってもらったり（男性は出身地、女性は昨日の夕食）、女性陣にはツーショットの撮影をお願いさせていただいたり、和やかに撮影が終了しました。



巻頭インタビューでは既に様々な現場で活躍しているっしやる方々ですので、男性には芝居に対する向き合い方を、女性にはひまわりで学んできた事をテーマにお話を伺いました。また全員の共通の項目として、将来の目標をより具体的にお話していただきました。入団した時期も育ったスタジオも活躍するジャンルも様々ですが、同じ劇団で育ち、多様な選択肢の中から俳優を職業として選択した皆さんの仕事に対する真摯な姿勢が印象に残るインタビューでした。

ご協力ありがとうございました。

《ご意見・ご感想をお寄せください》

劇団ひまわりでは、広報誌「Here Comes the Sun」をより多くの皆様にお手に取っていただきたくより良い誌面作りを目指して参ります。

読者の皆さまからのたくさんのご意見・ご感想をお待ちしております。

※ご意見・ご感想への返信はいたしておりません。ご了承下さい。

※ご記入いただいた個人情報は、返信・連絡などの目的以外に使用したり、本人の同意なしに個人が特定できる形で公表することはございません。

■「Here Comes the Sun vol.11」ご意見・ご感想フォーム

[https://docs.google.com/forms/d/](https://docs.google.com/forms/d/1Xg6xZVDtEt0M2BljaFqE4Xtr5JjdghDVmQMDf7lm-wl/viewform?usp=send_form)

[1Xg6xZVDtEt0M2BljaFqE4Xtr5JjdghDVmQMDf7lm-wl/viewform?usp=send_form](https://docs.google.com/forms/d/1Xg6xZVDtEt0M2BljaFqE4Xtr5JjdghDVmQMDf7lm-wl/viewform?usp=send_form)



全国の劇団ひまわり

劇団ひまわりには全国5カ所に俳優養成所・アクターズスクールがあり、さらに週末にレッスンを行う「エクステンションスタジオ」が15カ所、合わせて20カ所で活動しています。

東京俳優養成所



〒150-0021
東京都渋谷区恵比寿西2-12-12
TEL : 03-3476-0077
FAX : 03-3476-1439

千葉エクステンションスタジオ



京葉銀行文化プラザ
〒260-0015
千葉県千葉市中央区富士見1-3-2

さいたまエクステンションスタジオ



大宮ソニックシティ・
ソニックホール
〒330-8669
埼玉県さいたま市大宮区桜木町1-7-5

仙台エクステンションスタジオ



文化センターあおぼホール
〒980-0021
宮城県仙台市青葉区中央4-4-8

横浜エクステンションスタジオ



吉野町市民プラザ
〒232-0014
神奈川県横浜市南区吉野町5-26

新潟エクステンションスタジオ



BSN新潟放送本社ラジオオースタジオ
〒951-8655
新潟市中央区川岸町3丁目18番地

大阪俳優養成所(江坂)



〒564-0062
大阪府吹田市垂水町3-35-36
TEL : 06-6369-2202
FAX : 06-6386-7720

神戸エクステンションスタジオ



神戸国際会館
〒651-0087
兵庫県神戸市中央区御幸通8-1-6

大阪俳優養成所(梅田)



〒530-0013
大阪府大阪市北区茶屋町1-7
梅田カルチャー

岡山エクステンションスタジオ



ドレミの街
〒700-0023
岡山県岡山市北区駅前町1-8-5

京都エクステンションスタジオ



メルパルク京都
〒600-8216
京都府京都市下京区東洞院通七条下ル
東塩小路町676-13

金沢エクステンションスタジオ



北國新聞会館
〒920-8588
石川県金沢市南町2-1

福岡アクターズスクール



〒810-0042
福岡県福岡市中央区赤坂1-13-10
赤坂有楽ビル
TEL : 092-752-1077 / FAX : 092-752-1044

熊本エクステンションスタジオ



くまもと県民交流館パレオ
〒860-8554
熊本県熊本市中央区手取本町8-9
テトリアくまもとビル

北九州エクステンションスタジオ



北九州市立大手町練習場
〒803-0814
福岡県北九州市小倉北区大手町111-4
大手町ビル

沖縄エクステンションスタジオ



タイムスビル
〒900-0015
沖縄県那覇市久茂地2-2-2

名古屋アクターズスクール



〒460-0002
愛知県名古屋市中区丸の内2-8-5
TEL : 052-253-6077
FAX : 052-253-8911

静岡エクステンションスタジオ



グランシップ
〒422-8005
静岡県静岡市駿河区池田79-4

浜松エクステンションスタジオ



アクトシティ浜松
〒430-7790
静岡県浜松市中区板屋町111-1

札幌俳優養成所



〒060-0004
北海道札幌市中央区北4条西5-1
アスティ45 1階
TEL : 011-210-7000 / FAX : 011-232-7000

旭川エクステンションスタジオ



マルカツデパート
〒070-0032
北海道旭川市二条通7-227-1

劇団ひまわり Himawari Theatre Group Inc.

〒150-0021

東京都渋谷区恵比寿西2-12-12
03-3476-0077

pr@himawari.net

「Here Comes the Sun」は劇団ひまわりが発行するフリーペーパー・マガジンです。劇団所属の俳優・研究生・関連プロダクションに所属する俳優の活動や、映画・舞台・テレビ等のメディア出演情報、全国の俳優養成所ニュースを中心に、毎月バラエティ豊かな内容でお送りいたします。現在、この「Here Comes the Sun」を置いていただける施設・団体・お店等を募集しています。ご希望の方は pr@himawari.net まで、団体名・担当者氏名・お届け先住所・電話番号・希望部数を明記の上ご連絡ください。

©2016 Himawari Theatre Group Inc. 本誌記載の記事・写真の無断転載および複写を禁じます。



Here Comes the Sun vol.11

2016年6月1日 発行

制作 株式会社劇団ひまわり
企画 / 発行 砂岡不二夫
編集 劇団ひまわり広報部
印刷 株式会社サンエー印刷

ひまわり通算244号



